

第 76 回結核予防全国大会決議文

我が国の 2023 年における結核患者数は 10,096 人、罹患率は人口 10 万対 8.1 と低まん延状態を持続しているが、2022 年と比較してわずかな減少に留まった。これは新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）のために制限を受けていた外国出生者の入国が回復したことに伴い、若年層を中心に外国出生結核患者が増加したためである。また、結核患者に占める 80 歳以上の高齢者の割合は約 4 割以上であり、その半数近くが死亡している。コロナ対策においてはこれまでの結核への取り組みが生かされた一方、結核に対する国内での関心の低下に伴い、医療・対策の質や人材の維持、必要な抗結核薬の安定した確保が課題となっている。

WHO の推計によると、世界では、2023 年に未だ 1000 万人以上の結核患者が発生し、125 万人が死亡した。

今後、結核根絶に向けて対策の更なる推進を図るためにも、日本の経験を生かした国際的な協力・連携および新たな診断方法や新薬の開発と導入が必要である。

以上から、本大会は、国および地方公共団体、医療機関および結核予防会、全国結核予防婦人団体連絡協議会等の関係団体が力を合わせ、次の 4 項目について努力することを決議する。

一、日本における結核の根絶を目指して、超高齢者・外国出生者などのハイリスクグループに重点を置き、予防啓発・早期発見、結核医療対策の更なる推進を図ること。

一、コロナの経験も踏まえて、結核および呼吸器感染症への対策や、医療がより適切に実施されるように、一般医療関係者へ結核に対する重要性の普及とともに、公衆衛生部門の強化および感染症医療体制の再編を促すこと。

一、外国出生結核患者が増加している日本の結核対策のみならず、世界の結核終息戦略の目標達成のためにも、国際的な連携の下に、高まん延国に対する支援および革新的な技術開発とその普及に積極的に取り組むこと。

一、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、他の関係団体と連携し結核および呼吸器感染症の予防のために、国民に対する正しい知識の普及・啓発を推進するとともに、複十字シール運動をなお一層活性化すること。

令和 7 年 2 月 5 日

第 76 回結核予防全国大会